

一豊公と千代さま

功名が辻・みくな版

湖北にゆかりの武将は幾たりもいれど、山内一豊公はちよつと地味な殿様。長浜城の主だったことを知る人も少ない。片や、千代さまはというと、貞淑な妻の鑑というイメージでの知名度はバツグン！湖北においては、母の郷をキャッチコピーとする近江町ゆかりの輝く才女の一人である。この二人が、来年のNHK大河ドラマの主役を射止めた。演じるのは、上川隆也さんと仲間由紀恵さん。ドラマは、

湖北でも大河ドラマに向けてのプロジェクト始動！

原作「功名が辻」での主な舞台は、湖北、掛川、高知。一豊が、長浜城主を二回にわたって務めていることもあるので、湖北・長浜がドラマの舞台となる期待も大！ ゆかりの地である長浜市、近江町、虎姫町では、キャンペーンを打ち上げて、誘客につなげようと実行委員会が組織された。平成八年の「秀吉」以来、十年ぶりにやってくる大河ドラマ。最近話題の多いNHKだが、久しぶりの戦国物で湖北のまちはにぎわうことまちがいない！?

インターネットで見える一豊公&千代さま情報・湖北版

■近江町 <http://www.town.omi.shiga.jp/2006drama/index.html>

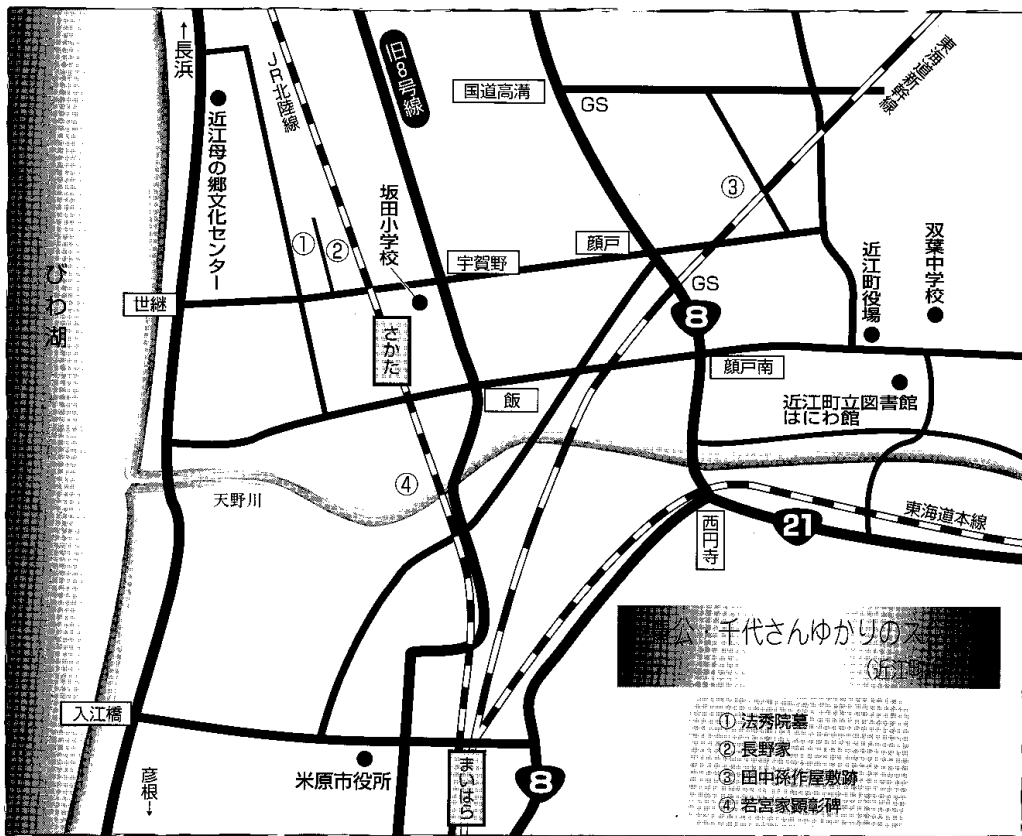


司馬遼太郎さんの「功名が辻」をもとに大石静さんが脚本を手がける。こうなれば、「みくな」が黙ってみているわけにはいかない。地元なればこそその話題を集めましょう。さあ、その日のために懷中に温めておいたこの十冊を使って……！

……と言いたいところだが、鏡箱ならぬクッキー缶の金庫は重量には遠い軽量。そんな現実をものともせず、湖北への興味と愛着という二輪の車にまたがり、手弁当スタッフは取材に疾駆した……。

功名が辻・みくな版、お楽しみください。

※「功名が辻」は、あくまで司馬遼太郎の小説であり、史実をそのまま伝えるものではありません。たとえば、法務院(法美尼)は千代の母として描かれていますが、史実では「豊の母」です。小説では、史実や地元での伝承に、小説の内容を織り込みながら、編集を進めました。



FUKUYA
富久や

食を通じて、すてきな時間をあなたに

社員食堂、お弁当、会議食、運動会やイベント時のお食事、パーティーなどのオードブル、etc...

お問い合わせ下さい。

湖北：Tel 0749(62)0692
湖東：Tel 0749(42)2373

賤ヶ岳は一豊にはキツイ 合戦の場だった

秀吉と一豊が攻めたルートを歩く

賤ヶ岳の戦いで、一豊は目立った働きをしていない。「功名が辻」によれば、戦いの論功行賞で一豊が増援を受けたのは、たったの五百石。念願の大名にはなれなかった。七本槍で活躍した二十歳そこそこの若武者たちが大幅に増強され、一豊を追い抜いていく。「たった五百石。羽柴様は天下、わしはあわせて三千五百石か」と、一豊は嘆き、千代のもとに帰って武士を辞めると言い出す。初めての挫折といつてもいい。

このとき、一豊は三十八歳。当時なら、とっくにおじさん世代である。賤ヶ岳は山のなかでの戦いだ。山を駆け登ったり、駆け下りたりと連続。しかも戦いの前日には、大垣から木之本まで五十キロの道のりを五時間で走り通してきただけ。相当タフな体力が要求される。古参の将校には、実に不利なシチュエーションだったのだ。

新雪に埋もれた尾根を山頂へ向かう

木之本インターから、北へまっすぐ伸びる道をたどると、余呉川を渡ったところが木之本町大沢の集落。家並みを抜けると、集落を見おろすところに千手観音菩薩を安置する大沢寺が鎮座している。境内の左手に細い林道が通じていて、この道あたりが秀吉や一豊が攻め登ったルートのようなのだ。「功名が辻」では、「苔ですべり、木の枝で顔をひっつかかれ、雑兵同然の泥まみれのかっこうで山中を北上した」とある。当時、林道のようなしっかりとした道はない。みんなが、競うように山の斜面を登っていったのだろう。



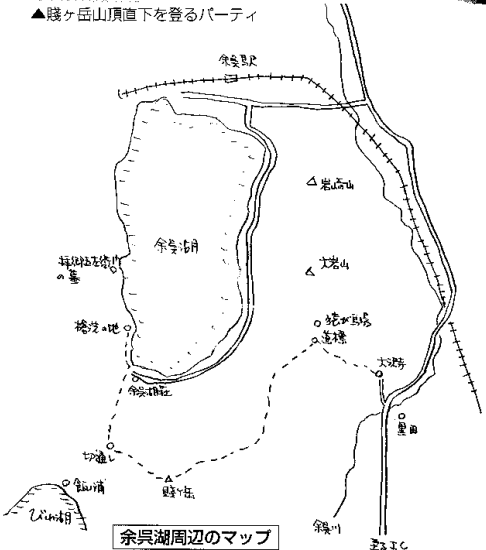
▲大沢寺への石段を登る。麓に雪はない。



▲尾根に出ると道標が立っている



▲賤ヶ岳山頂直下を登るパーティ



余呉湖周辺のマップ

BEER-PAL 風トレックを楽しむ

決行の日は、二月の中旬。温暖化で雪が少なくとはいえ、余呉の山には雪がたっぷり積もっている。越前北の庄にいた柴田勝家も、この雪で春まで近江に入れなかった。

天候も変わりやすい。膝まで埋まる雪をかき分けてのラッセル。途中からは、一メートル先も見えない猛吹雪。賤ヶ岳死の彷徨になるかも、などと覚悟を決めて長浜を出発したが、季節はずれの好天に恵まれた。早春

さて、みーなのパーティは雪に足を取られながら林道を歩くこと二十分、大岩山から賤ヶ岳へ通じる尾根に出た。ここから北へ向かうと、すぐに猿が馬場の碑が現れる。秀吉が余呉湖を見下ろしながら指揮を取ったところだ。その先に大岩山があり、佐久間盛政に攻められ討ち死にした中川清秀の墓がある。

秀吉軍は、猿が馬場から賤ヶ岳に陣取る柴田勝政の部隊を急襲する。みーなのパーティも尾根を南へ向かい、賤ヶ岳をめざす。雪道は新雪に埋もれている。途中まで付いていた人の踏み跡もない。あるのは、ときおり雪道を横断するように付けられた動物たちの足跡だけ。冬の北八ヶ岳を歩いているようだ。

雪の里山を遊ぶ、といった「BEER-PAL」タツチのトレッキングを楽しんだのだ。

さて、肝心なのは登ったルート。勝家軍の佐久間盛政が、大岩山砦を守っていた中川清秀に、猛烈な総攻撃を開始したのが四月二十日の晩。雪はもうなかった。大垣にいた秀吉は、この報を聞いて「よっしゃ」と膝を打つ。午後二時に大垣を発し、北国脇往還をひた走りに走った。そして、木之本の本陣に着いたのが日没。超人のような秀吉軍の動きにびっくりしたのが佐久間盛政。ウーン、ゆっくりしている秀吉軍に袋叩きに遭ってしまふ。これはかなわんと、夜陰に紛れて退却する。勢いを得た秀吉軍、ここぞとばかりにドツドツと追撃。その素早いこと。

ちよつと講談調になってきたが、「功名が辻」でも戦の場面はハラハラドキドキの連続。一気に戦国時代にタイムトリップしてしまふ。大河ドラマのおもしろさの一つは、やっぱり合戦なのだ。

闇夜のなかで柴田軍と秀吉軍が衝突

賤ヶ岳山頂からの眺望はすばらしい。北に余呉湖、西にびわ湖、そして南には湖北の野が一望だ。遠くには、白銀の伊吹山が屹立している。みーなのパーティは、その眺めを存分に楽しみながらのコーヒープレイク。

しかし、山頂の砦にいた柴田勝政軍と秀吉軍が衝突したのは午前三時。闇夜のなかで見えるのは、敵味方の鉄砲の火光だけ。眺めを楽しむ余裕などなかった。さて、一豊はといえば、疲れ切った体にもかかわらず打って部下とともに進むのだが、闇夜のなかでウロウロするばかりだった。やがて夜が

奥琵琶湖 真鴨の里
湖北の産肉の
なまぐさ真鴨は、
肉がよく引き締
味に深みが増す。
同じ鴨を食すな
ぜこの地の鴨
鍋料理にてお楽
しください。
予約可
宿泊プラン
9800円
TEL 0749-89-0350
FAX 0749-89-1363
http://www.kofu.jp/suzura/